

身近な自然環境・歴史的文化的環境・生活環境を保全・回復・創成する

NPO法人 すいた市民環境会議

2006年3月 第44号

# 吹田の郷

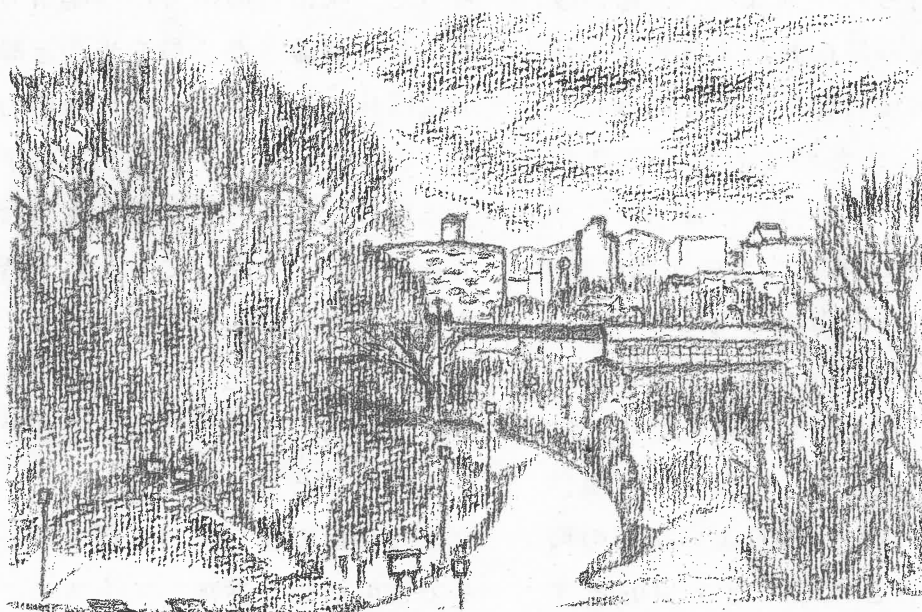
発行/NPO法人すいた市民環境会議 事務局/〒564-0062大阪府吹田市垂水町3丁目8-28.106 TEL/090-8375-0647 FAX/06-6386-9491 中村小夜子

会長/小田忠文 ホームページ <http://www3.big.or.jp/%7Esskk/sskk.htm>

設立/1997年3月15日

編集長/山本富雄

年会費/正会員(個人・団体)1,000円、正会員(法人)10,000円、購読会員1,000円、賛助会員10,000円 郵便払込口座番号/00980-3=28845



## 目次

コラム	会長・小田忠文	.....	2頁
	表紙は語る	.....	2頁
	「旧乾家住宅」見学 岡村昇二	.....	3頁
特別寄稿	千里緑地の種多様性の保全 神戸大学教授 武田義明	.....	4～5頁
	ふるさとのお正月 須賀井やすみ	.....	6頁
	各委員会活動発表会 学習研修委員会	.....	7頁
活動報告	太陽光発電所に灯がともる 生活環境委員会	.....	8～9頁
	文化施設探訪 関西大学探訪記 竹内孝之	.....	10頁
	お知らせ 学習研修委員会、事務局	.....	11頁
	お知らせ 生もの委員会	.....	12頁



今年に入って  
当会にとってう  
れしいニュース  
が二つあった。

ひとつは吹田市から文化のまちづくり推進者として表彰されたことだ。この表彰は平成14年から隔年におこなわれ今年が3回目である。今回は市内の9団体と3人の個人が表彰された。▲当会の表彰理由は「自然環境調査、紫金山公園の里山管理、ため池のかいばり等の自然環境保全活動や地球温暖化防止の取組み（環境家計簿の普及、打ち水作戦など）、あろく吹田編集など多岐にわたる分野での活動が市民への環境啓発に大きく寄与し、ひいては文化のまちづくりに貢献された。」というものであった。▲当会は発足して9年目を迎える。当会の定款には「この法人は、吹田市の環境について、心に潤いとゆとりを持てるようなまちづくりを考え、身近な自然環境・歴史的文化的環境・生活環境などの保全、回復、創成などをおこない、よりよい吹田の環境を次世代に引き継ぐことを目的とする。」とあり、まさに会の趣旨と活動が認められたということだ。▲二つ目は2

月に古江台中学校市民共同発電所として太陽光発電装置が稼働したことである。市民共同発電所とは、少しでも温暖化防止に貢献したいと考える善意の人々から寄付として資金を集め、それによって自然エネルギーによる発電設備を公共的施設に設置したものを言う。▲今回は古江台中学校の生徒をはじめ、PTA、地元小学校、地元の地域教育協議会、ディオス北千里専門店会のみなさんが協力して、広報や募金をし、さらには専門店会のポイント制度（夢シール）を利用させてもらった。吹田市の多くの事業所の協力もあった。勿論当会会員や当会と縁のある市民団体のみなさんの多大な協力があった。このようにして募金をして下さった方はゆうに千人を超えた。▲当会は「吹田をソーラータウンに」という合言葉で今後もこの活動を続けていく方針である。古江台中学校は記念すべきその第一歩である。今回、まちづくり推進者として表彰されたことでさらに勇気が湧いてきた。今後も会員の皆さまが身近な人を巻き込んでこの活動に参加して下さいることを切に願う。

### 第3回吹田市まちづくり推進者として表彰されました



表彰状には  
『貴会は自然環境の保全活動を通して市民文化の発展に尽力され文化のまちづくりの振興に寄与された功績はまことに顕著であります よってここに表彰します  
平成18年1月28日 吹田市長 阪口善雄』  
と記されています。

#### \*表紙は語る\*

この頃、博物館が熱くなっています。4月22日～6月4日まで44日間開催される「千里ニュータウン展」の自然関連イベントに、当会が団体参加することになったからでしょうか？

あらためて博物館のテラスに立ち千里丘陵を見渡すと、左に博物館の森、右に紫金山、道を横切る名神高速道路と木立ちの向こうに見えるマンション群の間に、黄金色の太陽の塔が小さく光ります。マンションの建ち並ぶ千里丘陵と、静かにたたずむ吹田市立博物館、それらは短いトンネルでつながっていました。

(Y)

## 取り壊しの危機にある文化財的豪邸

06.1.29(日) まちなみ委員 岡村昇二



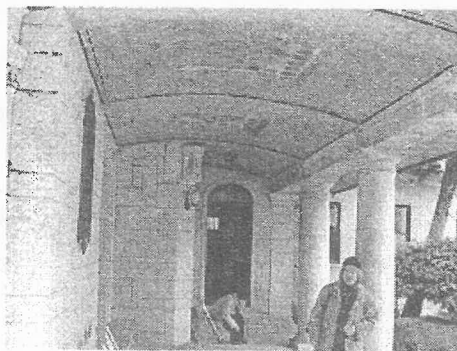
委員会メンバー9名と会員3名の合計12名で行ってきました。「旧乾家住宅」は、乾汽船および乾倉庫の社主・乾新治（2代目新兵衛）氏が、日本の海運界が最も華やかだった頃の昭和11年（1936）に、設計を渡辺節氏に、施工を竹中組に依頼した鉄筋コンクリート造り二階建の豪華な住宅です。

敷地 3868 m<sup>2</sup>（約 1200 坪）、建物本館のみ 720 m<sup>2</sup>（約 220 坪）と広大で、贅を尽くした建物は当時の金額で 45 万円を費やしたそうです。大卒の初任給が 5000 倍として、現在価値に換算すると 22 億 5 千万円となるから驚きです。

広さ、外見、内部の素晴らしさから、映画・TVのロケに使われることは頻繁なようです。今年の1月初めに放映された、吹田ケーブルテレビ制作、「神童と言われた男の生涯」と題した夭折の天才音楽家・貴志康一を描いた作品のロケにも使われています。

阪急御影駅より山手へ、高級住宅街を歩くこと 15 分ほどで、乾邸に着きました。門をくぐって、何十メートルか進んでから車寄せがあり、車寄席から玄関ドアまで丸い石の柱の列が続きます。その天井もタイル張りで洒落た照明器具が付いています。これから入る内部の豪華さを想像して、わくわくするアプローチとなっています。建物に使われている石は薄いベージュ色で、石の冷たさを感じさせないのです。

玄関ドアの淡い色ガラス、土間のタイル、土間の天井、壁すべて調和した上品な造りとなっています。玄関ホールは薄暗くして、照明の美しさを引き立てています。玄関ホールから二階への階段手摺はチーク材に豪華な彫刻を施し、階段だけの費用で庶民の家が 2～3 軒建つとのことでした。一階のゲストルームは、高さ 5 メートルの天井に大きなシャンデリアが下がり、華やかなパーティが開かれた昔を偲ばせました。このあと、各部屋ごとに驚き、歓声をあげながら、1 時間超の時間を見学に費やしました。



引き続き、この建物を管理している NPO 法人アメニティ 2000 の事務局長清水順子さんから、NPO 活動と歴史的建物の保存活用について、状況聞き取りと若干の意見交換をしました。

現在同住宅は、相続税の物納物件として国の所有ですが、神戸市の保存活用計画が頓挫して、今後の目途が立たず、暫定的に NPO 法人が月 2 回の内覧会や貸し部屋に活用している状態です。民間による現状建物の活用には採算は見込めず、建物撤去の危機にあります。

乾家所在地：神戸市東灘区住吉山手 5-1-30

# 特別寄稿 千里緑地の種多様性の保全

神戸大学教授 武田 義明

(すいた市民環境会議顧問)

## はじめに

吹田市千里ニュータウンは1960年頃から開発が始まり、丘陵地が住宅地へと変わっていきました。その中で、千里緑地として里山の一部が、都市公園、都市林として孤立的に残されてきました。市街地にあっては比較的豊かな自然が残され、貴重な存在となっていました。里山は、これまで人間の生活と密着し、薪や炭などの生活のための燃料を提供してきました。また、千里丘陵には棚田が多く作られており、

薪炭のほかに緑肥としても里山の草木が利用されてきたと思われます。さらに、大消費地の大阪に近く、過度の利用によってはげ山や低木林が多かったと思われます。恐らく、このころの植生は痩せ地に強いアカマツ林が発達していたと考えられます。

その後、燃料革命が起こり、燃料が石炭、ガス、電気、石油などに変わり、里山の木が必要でなくなったため、伐採されることがほとんどなくなりました。

それによって、樹木は生長し、はげ山も少なくなり、生物の多様性も回復してきたといえます。

## 都市林の分断と種多様性の低下

宅地開発などによって残されている都市林が分断され、面積が小さくなるとそこに生育できる植物の種類数は少なくなります。

ここでは植物の種類数を種多様性の指標とします。

2000年から2001年にかけて千里丘陵の残存している緑地とそこに生育している植物を調べました。条件をそろえるため、竹林や人工林を除いて、コナラやアベマキが優占している林に限り調査を行いました。調査は卒論生を中心に、吹田市建設緑化部に便宜を図っていただきながら、吹田市民

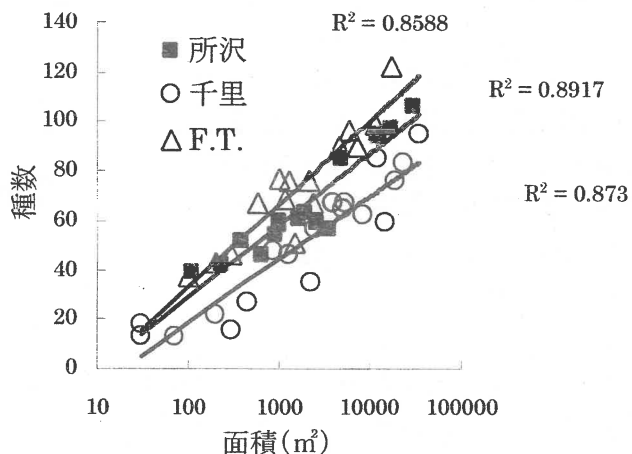


図1. 種数面積関係

■ 所沢市    ○ 千里丘陵  
△ 三田市フラワータウン (F.T.)

環境会議や吹田自然観察会の方々にも情報を得て行いました。

その結果、面積と出現種数の関係は図1に示してあるように、面積と出現種数の間にはかなり高い相関関係があることがわかりました。ここでいう出現種数は森林性の種に限ってあります。また、埼玉県所沢市および三田市フラワータウンでも同じ調査

を行い、比較しました。両市ともここ 20 年から 30 年の間に開発され、里山が分断化された場所です。同じ面積であっても千里丘陵は両市と比べて出現種数が少ないことがわかります。このことは、里山としての利用の程度が激しかったことと千里丘陵の方が、開発が早く始まり、分断化が進んでいるためだと考えられます。

小面積化が進むと特定の植物が生育できなくなってきました。コナラ、アベマキ、ヤマウルシ、アラカシ、ネジキ、シャシャンボなどは面積が小さくなくても生き残れますが、マルバアオダモ、ザイフリボク、フユイチゴ、コバノガマズミ、オオベニシダ、サイゴクベニシダ、イノデ、フモトシダなどの種は生き残れません。特に、シダ類はその傾向が顕著です。この原因としては面積が小さくなると微地形の変異が少なくなり、乾燥化が進むためだと考えられています。したがって、種多様性の保全には、小さな面積の緑地をたくさん残せば大きな面積を小数残すのと同じ効果があるともいわれていますが、大きな面積でないと生き残れない種もあることを考慮しなければなりません。

#### 遷移の進行による種多様性の低下

里山の管理放棄によって、遷移が進行し、常緑化が進んでいます。紫金山公園では、高木にはコナラやアベマキがあるのですが、その下にアラカシ、クロバイ、モチノキ、

シャシャンボ、カナメモチ、ソヨゴなどの常緑樹が繁茂し、林床まで十分光が届かなくなっています。このようになると林床の植物は生育できなくなり、多様性の低い林になってしまいます。また、近年の問題として、竹林が拡大し周辺の林を駆逐している減少が、各地で起こっています。千里丘陵の竹林で種数の面積と出現種数の関係を 2005 年に吹田市建設緑化部やすいたシニア環境学習協会の方々にお世話になりながら調査しました。その結果、図 2 のようにモウソウチクの本数が増えるとほかの植物がほとんど無くなってしまうことが示されました。

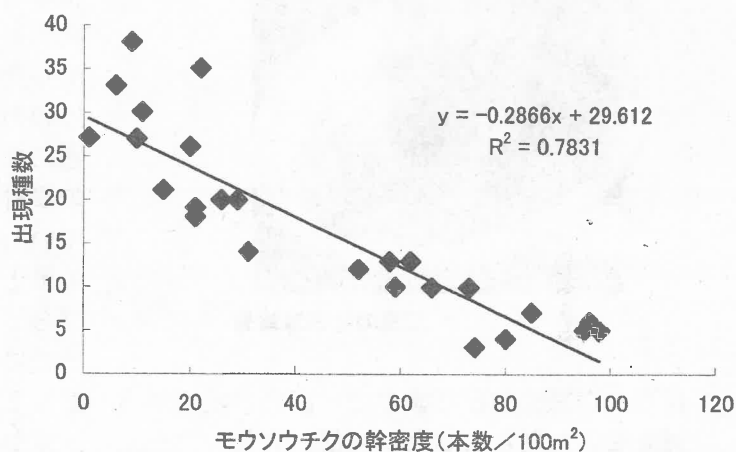


図 2 モウソウチクの密度 (本数/100m²) と出現種数

都市林のような孤立した林では、いったん種が絶滅してしまうと、種子供給源が近くにないために、二度と戻ってこない可能性が高いのです。そうなる前に、森林や竹林の管理を行い、少なくとも今残っている植物を保全することが急務であると考えられます。

# ふるさとのお正月

## 二碗の雑煮

日本民家集落博物館見学記

‘06.1.9 (月)

まちなみ委員 須賀井やすみ

お正月気分のまだ残る 1 月 9 日(日)服部緑地公園内日本民家集落博物館で催された「ふるさとのお雑煮会」に参加しました。あの塩川正十郎氏が寄贈なさった 250 年前の河内布施の大庄屋の長屋門が受け付けになり、早速ここから民家博物館が始まるわけです。北は岩手県「南部の曲家」から南は鹿児島県「奄美大島の高倉」まで日本の民家が 50 年前にこの地に移設、復元されたそうです。

まちなみ委員会の委員であり、当博物館友の会会長の岡村氏の案内で楽しくて、わかりやすい見学会となりました。

お雑煮の一椀目は、宮崎県「日向椎葉の



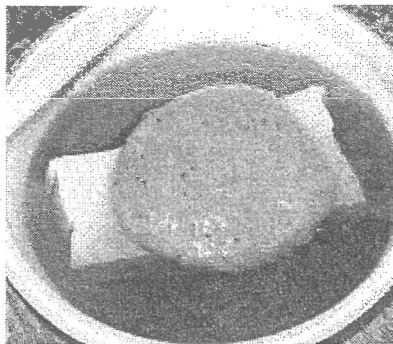
広島のお牡蠣雑煮

民家」の縁先の日だまりで、広島のお牡蠣雑煮をいただきました。丸餅、青菜、カキの入ったすまし汁仕立て、カキには「賀喜」という字が当てられ縁起ものだということです。この移築された民家は地盤の傾きなどにより解体修理が急を要するとのことでした。(皆様の寄付金のご支援よろしくお願い致します・・・博物館より\*。)

二椀目の雑煮は養蚕を生業とし、大家族の暮らしを支えた飛騨白川の民家で、当地の栃餅雑煮を囲炉裏(いろり)を囲んで美味しくいただきました。栃の実の丸餅と硬い大きめの豆腐の醤油仕立ての雑煮でした。独特の固い豆腐は五箇山豆腐が使われていると

いうことです。

お正月ということで各民家の正月飾りも楽しむことができました。小さな門松、竹・松・縄を組み合わせた素朴なもの、ゆずり



飛騨の栃餅雑煮

葉と松だけをくくったものなどがあり、餅花などの飾りつけは、民家のたたずまいと調和したもので静かな雰囲気がとても好きでした。前述した民家以外に手洗いに刀掛けのある大和十津川民家、この冬豪雪で話題になっている信濃秋山郷の民家や小豆島の農村歌舞伎舞台など計 12 棟が移設されているそうです。これらの民家は地方固有の風土から生まれた特色を残した景観がすばらしく、自然と共存する工夫がなされ、そこに生活を営んできた人々の息づかいが感じられました。

懐かしい日本の暮らしに出会えた暖かなお正月の一日でした。又この博物館には「大家」「語り部」「力持ち」「知恵袋」などと名付けられたボランティアが活動し、支えておられるようです。皆様の活動に感謝と敬意を表し御礼申し上げます。今回は「ふるさとの雑煮大会」ということで民家の詳しいお話はできませんでしたが、皆さん是非是非ガイドの方とお歩きになってよい一日をお楽しみください。

便利と住み心地の良さに慣れ大事なものを見失ってしまっているかもしれない日々の生活を振り返ってみたいと思いました。



# 委員会活動発表会&懇親会

05.12.17(土) 学習研修委員 高畠耕一郎

## すいた市民環境会議

学習研修

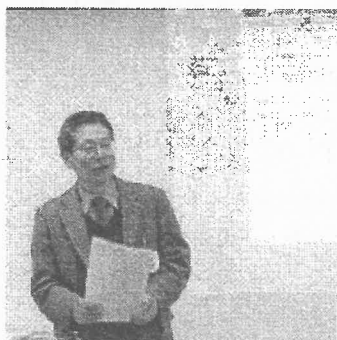
生きもの

まちなみ

生活環境

会報誌

すいた市民環境会議は上図のように5つの委員会が主体的に活動をしています。その活動実績や活動理念を、一般会員、友好団体関係者、一般市民の方々に提示し、すいた市民環境会議の全容を理解してもらい、一人でも多くの人が活動に参加をしてもらおうと、初めての取り組みでしたが12月17日(土)に吹田市民会館で行いました。



参加者は28人で、主に、現在各委員会で理事と一緒に活動している人が多かったように思います。

まず、学習研修(高畠)・生きもの(平)・まちなみ(岡村)・生活環境(田中(隆))・会報(古谷)より現在行っている活動内容の紹介を各10分してもらいました。

パワーポイントで要領よくまとめた紹介がありました。改めて見てみると、理事同士もお互いの委員会での活動をよく知ら

その後、参加者を含めたパネルディスカッションをしました。

「今日の報告で心に残ったキーワード」



などを出しながら感想を、各委員会委員長のパネラーだけでなく、参加者一同が5～6人のグループに分かれて、お互いに自己紹介した後、感想を言い合いました。

また、「すいた市民環境会議がこれから取り組まなくてはいけない課題は何か」というテーマでも話し合いました。

いろんな意見が出ましたが、特に印象に残っているのは、「もっと市民にわかりかつ参加しやすい活動をすべきだ。」「各委員会との連携を強化すべきだ。」でした。

その後、自由討論のような形になり、参加者の活動紹介や感想、すいた市民環境会議の活動への希望が述べられました。

終了予定の4:20になっても、議論が続くほどの活発な意見交換をしていましたが、会場の都合もあり終了することにしました。

この催しでは、すいた市民環境会議の活動に対して、熱い思いを持っている人が集まっておら

れ、理事も多くの人に支えられての活動をしていることに自信を深めました。

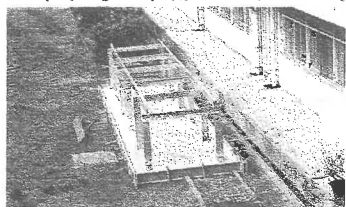
ないことに気がつきました。やはり、きちんとした活動内容をお互いに理解し、すいた市民環境会議として全体的な取り組み方向を見極めて行かなくてはならないことに気がつきました。



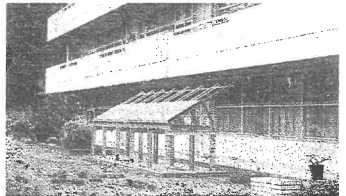
2006年2月15日

できました！吹田市初の市民共同発電所！

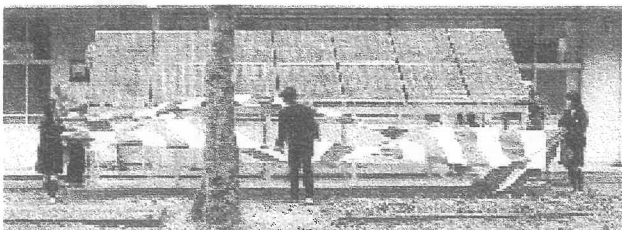
▼1/中旬 架台が立ち上がる



▼2/6 パネル半分は寄せ書き中



▼2/15 点灯式 生徒によってパネル序幕



未来へつなぐ

古江台中学校市民共同発電所

点灯しました！

今、市民の力で電気を作っています。

みなさんからの物心両面のご協力のおかげです。

設置資金はあと 28 万円 (2 月 20 日現在) です。

2004 年末、夢を掲げて私たちはスタートしました。2005 年夏、ビオトープをつくる古江台中学校との出会いがあり、10 月実行委員会を立ち上げました。

カンパ活動の日々……。多くの方のご参加がありました。最初にカンパしてくれたのは「おひさま広場」で遊んだ小学 1 年生の女の子。北千里商店街でのガンバ応援イベントではガンバファンから熱い気持ちをいただきました。

また「ゆめシール」も大きな力となっています。ずっとためていたものをドサッとくださった方々も、北千里での忘年会を企画

してシールを集めてくださった団体もありました。古中 PTA のみならず小学校 PTA も集めてくださいました。

活動を通して多くの方々と話をし、1000 人を超える方にご協力をいただきました。そしてなにより、環境会議会員の力量を実感しました。

これは 2.2kW システムという小さな一灯ですが、「吹田をソーラータウンに！」と夢を掲げた私たちは最初の一步を記したのです。



2 月 15 日 (水) 14:30 阪口市長をお招きして、点灯式を行いました。朝からあいにくの雨模様でしたが、古中プラスバンド部のファンファーレとともにパネルが序幕されると一斉に拍手が沸き起こりました。

発電パネルの前で記念撮影▼

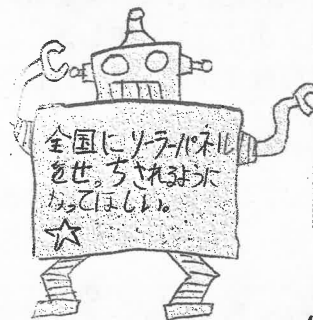




1月26日古江台中学校文化厚生委員会主催イベントとして、古中ソーラーの説明をし、ご理解とご協力をお願いしました。そのあと、身近な自然素材を使ってリースや壁飾りを作りました。楽しかった～！

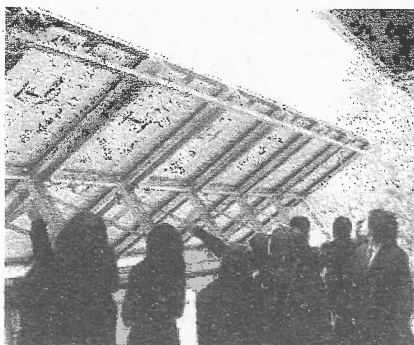
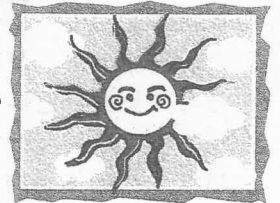



発電パネルの裏は真っ白。ここに何か書いてみたい  
な〜。そこで2月6日、みんなで環境への思いを寄せ  
書きすることにしました。ほかの思いもいろいろと。

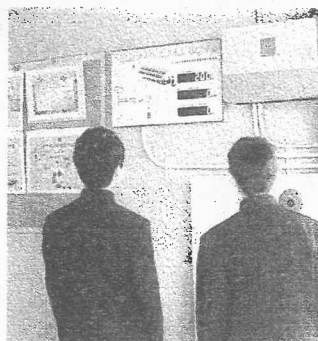


未来ヲ イキルノ  
ハ我々ダ!  
ドンナ未来ナノ  
ダ?

世界平和  
 生きる 新時代  
 太陽光の 奇跡  
 生活 目指せ  
 環境のこと



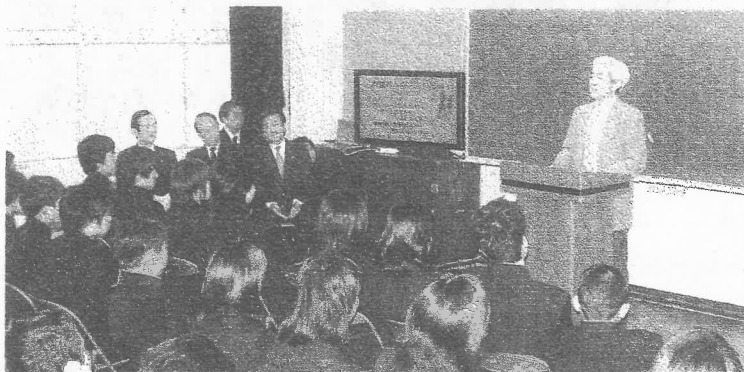
▲点灯式の日、パネルの裏の寄せ書きを見る生徒たち。  
「あった！あった！」



▲表示パネルはみんなが通る廊下に設置されました。



▼ビオトープもできてきました。



▲市長・校長・PTA会長からお祝いのことばがあり、小田会長が古中太陽光発電への思いを伝えると、生徒会長が「環境のために何ができるか考えます」と答えてくれました。

「春を食べる会06年」を開催します。  
⇒案内ページをごらんください。

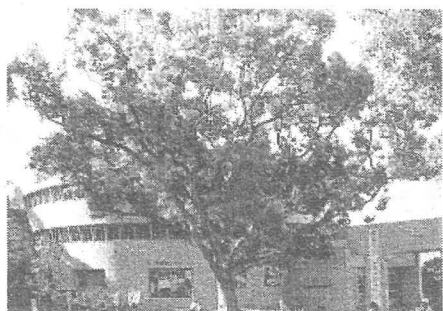
# 関西大学探訪記

05.12.13(火) 会員 竹内孝之

まちなみ委員会主催の「あろっく吹田」には、会社をリタイアして以来、会の会員になり、色々なコースを探訪してきました。各コースを2周されたこともあり、委員会から「いいでしょこのまち 文化都市吹田文化施設探訪」への方針転換をお聞きし、また更に新しい分野に挑戦できる楽しみが訪れました。

吹田市の大きな特徴は、素晴らしい学園都市であることです。大阪大学、大阪学院大学、金蘭千里大学及び関西大学等があります。

私は「第7回の大阪大学吹田キャンパス」に続き今回も参加しま



新関西大学会館南棟

した。通常では一般市民は出入りする事が出来ない数々の施設をということと、大学の生涯学習講座にも度々参加させて頂いておる親近感から、更には100周年を迎えた経済学部部長森岡教授が私の大学の後輩であることと併せ、胸の高鳴りを感じながら参加致しました。

参加者12名の大半がいつもの顔馴染のメンバーで、小田会長、松岡委員長を中心に、幹事役の皆様のお世話で、和気藹々に仲間感覚で心躍らせながらの探訪となりました。

見学順序は先ず、大学正面前に集合→新関西大学会館南棟歴史展示室→総合図書館→学舎・実験棟→100周年記念館→校内記念館レストランにて昼食→解散、となりました。

社会連携推進本部の東郷次長他幹部スタッフが熱心に案内、説明して下さい、更に随所での参加者の数多い質問にも丁寧にお答えいただき、その対応振りに感心致しました。

吹田市も2004年8月に当大学と「地域提携に関する包括協定」を結び、行産学一体となり市民参加の相互交流をはかり、地域の発展を目指すことが、新聞紙上で報道されたことはご承知のことと思います。その実践版とも言える企画に、感激しながらの見学でした。

関西大学の概要は既にご存知と思いますが、明治19年に関西法律学校として西区に開校し今年で120周年。千里山住宅開発と同じ時期の大正11年に千里山学舎を建設し、法・商の2学部を持つ大学に昇格。関西6大学の一つとして発展し、現在は8学部を持つ総合大学です。大学のモットーは大学発展に大きく貢献した元学長兼総理事の山岡順太郎氏の唱えた「学の実化(じつげ)」「開かれた大学」とし「地域社会の貢献に務める」ことです。

今年は開校120周年を迎える関西では最も伝統ある私学で、学生と教員と職員合わせ3万人弱で、卒業生「交友会」会員30万弱のマンモス校です。キャンパスは元々有名な遊園地だったところにあり、樹木と緑につつまれた敷地の総面積は何と35万平方メートルの広さです。

特に驚嘆し印象に残った施設は、総合図書館で全国大学有数の195万冊の蔵書を誇ります。そして多彩な情報を学内外に発信する「超・図書館」なのです。このほか大学院「尚文館」7階の特別会議室、増築中の法科大学院「以文館」・市民解放の1800点を常設展示する「関西大学博物館」

及びその前庭にある吹田大木百選のクスノキの

大木。1000人収容の「BIGホール」・「100周年記念会館」と館内「友愛の泉」・改築中「関大生協」・大きな「参百年後資金の碑」・大学情報ネットワーク「ITセンター」・先端科学技術



関西大学 100 周年記念会館

推進機構の環境・エネルギー開発中

の「産学連携研究センター」等々にも感心しました。

南敷地には「関西大学第一高・中学校・幼稚園」があり、教育分野で吹田が誇れる総合機関、「学の実化」の理念と「開かれた大学」を再認識した素

お知らせ

2006年イオン・すいた市民環境会議共催 環境バスツアー

## 狭山池博物館 ビオトープ ビッグバン見学

毎年春に、ジャスコ南千里店とすいた市民環境会議の共催で、環境バスツアーを行っています。今年は、大阪南にある狭山池博物館を見学し、すぐ隣にある狭山副池でつくられている市民参画型ビオトープの案内をしてもらいます。午後は大阪府の施設で大型児童館「ビッグバン」に行きます。

<実施日> 2006年4月8日(土) 8:50から17:00 雨天決行

<行き先> 午前\*大阪府立狭山池博物館と狭山副池ビオトープ  
午後\*大型児童館「ビッグバン」(堺市)

<集合> 午前8:50 阪急南千里駅前 ホテルマーレ裏(千里南公園側)

<参加費> 2000円(中学生以上) 小学生以下は1000円  
幼児は無料(席なし・弁当なし)

(交通費、昼食費、保険代、講師代すべて含む)

<募集人数> バス一台 25名

<申し込み> 2006年3月1日(水)~3月10日(金)

佐藤和子 Tel・Fax: 06-6387-2096(9:00~21:00の間)



### 事務局からのお知らせ

#### ①理事及び監事の立候補、推薦を受け付けます

今年度は役員の改選期ではありませんが、会の活動をより充実させ活発にするために理事及び監事の補充をいたします。

条件は「毎月第3土曜日の午後で開催する理事会に出席できること」です。

定款に記されている職務は次の通りです。

【理事】理事会を構成し、定款の定め及び理事会の議決に基づき会の業務を執行する。

【監事】理事の業務執行の状況を監査する。会の財産の状況を監査する。

理事の業務執行の状況または会の財産の状況について理事に意見を述べる。

なお推薦される場合は事前に本人の了解を得ていただきますようお願いします。

受付期間 2006年3月1日より3月31日まで受付、問い合わせ 事務局 中村まで

電話 090-8375-0647 Fax 06-6386-9491

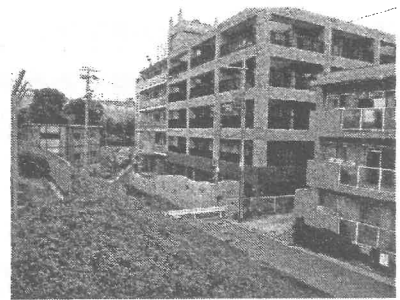
#### ②第7回通常総会は6月18日(日)午後6時から開催いたします。

場所など詳細は次号でお知らせします。

# \*春を食べる会06年\*開催のご案内

生きもの委員会

七草の予備調査を開始した03年3月に、当時のビオトープ委員会と共同で、「メダカの田んぼ」と名付けた岸部北(釈迦が池堤防下)の水田で採取した春の七草を中心とする野草を調理して食べる「春の七草試食会」を行いました。続いて同年4月に開催された阪急山田駅東側の「まちびらきイベント」では、揚げたての「野草のてんぷら」を直販する模擬店を出し大賑わい、更に04年、05年も野草の採取場所・調理場所を変えつつ七草試食会を開催してきました。



03/3/9 採取「メダカの田んぼ」 調理・試食「山三公民館」  
04/3/6 " " " " "東佐井寺公民館"  
05/3/20 "「吉志部神社前の田んぼ」 " "岸二公民館"

メダカの田んぼ跡 06/2/24

「つわものどもが夢の跡」  
老人ホームが建っています

今年の試食会は、市民共同発電所(=市民の寄付による太陽光パネル発電)を設置したホットな場所、古江台中学校で開催します。当日は集合場所の山田駅から弘済院や千里中央公園などで野草を採取しつつ古江台中学校まで歩き、採取した野草を調理します。古江台中学校周辺には田んぼがないため、「仏の座=現代名コオニタビラコ」など、春の七草の主役の田んぼにしかない野草は事前に別の場所で採取して持参します。去年は写真にあるように、ツクシ・コオニタビラコ・タンポポなど20種の野草を、てんぷら・おひたし・酢味噌和え・散らし寿司・お吸い物など10種のお惣菜に調理して賞味し、大好評でした。

「昨年参加し美味しかったので、今年も」と思われる方、「今まで参加できなくて残念だった」と思われている方、定員30名厳守ですので、早めにお申し込みください。  
尚、定員オーバーの場合はキャンセル待ちとしますので、申し込み後、都合が悪くなった方はご連絡ください。



ツクシを採取



揚げたてのてんぷら  
(上記写真は昨年状況)

## 記

日時(曜)	2006年3月26日(日) 9:30~13:00
集合場所	阪急山田駅1階バス停附近
野草採取場所	弘済院及び千里中央公園
調理場所	古江台中学校家庭科室
会費	500円
持ち物	エプロンなど(雨の場合は野草採取時に長靴が便利)
申し込み先	生きもの委員会 小田(信) tel 6319-0630 平 tel 6877-0648
申込み〆切	3月20日(月)

## 編集後記

2月15日、すいた市民環境会議が吹田の地の歴史に新しい灯をともした日である。  
公共の施設、古江台中学校でクリーンエネルギーの象徴である太陽光発電システムの点灯式がおこなわれた日である。小さなNPO法人が「吹田をソーラータウンに」と大きなアドバルーンを上げて14ヶ月目の快挙である。勿論、地域の人たちや専門店会、学校関係者もあけて汗を流した結果である。

太陽光から作られた電気の一部でビオトープの水が循環する。このビオトープから緑を愛し、水や風に親しみ、小さい虫たちの姿から命の大切さを学ぶ子どもたちが多くなっていくことを願う記念の日である。(編集長)